◪ 受賞者業績

「第３７回青森県農業経営研究協会賞」受賞者

- 氏　　名　　寺 澤 和 夫（てらさわ かずお）
- 年　　齢　　昭和 37 年生まれ・56 歳
- 住　　所　　上北郡七戸町字舘野
- 経営内容（平成 29 年）

農業労働力	家族　３人（本人、妻、長男） 季節雇用　３人
経営耕地面積	転作田　28ａ 普通畑　1,472ａ（内：借入地 800ａ）
主な作付作目	ながいも　250ａ、ながいも種子　150ａ、 にんにく　50ａ、いんげん　5ａ

【業　　績】

経営規模拡大による３年１作の輪作体系を確立した「ながいも」の高品質生産と優良種子供給による安定した経営の実現

寺澤氏は、ながいも生産の先駆者であった義父の後継ぎとして平成 10 年（36 歳）に就農した。就農当初は、思うように生産できずプレッシャーを感じていたが、義父の元で技術を身につけるとともに、講習会への参加や栽培実証試験を行い技術を高めた。さらに、緑肥等を組み合わせた３年１作の輪作体系により高品質安定生産を実現してきた。

現在は、ながいも生産の高い技術力が評価され、ＪＡ全農あおもりから種子生産の委託を受け、県内の生産者へ優良種子を供給している。

また、青森県農業経営士として、地域農業の発展と農業後継者の育成に努めているほか、行政や研究機関と優良系統の選定や省力化技術の実証に取り組み、本県のながいも振興に大きく貢献している。

１　経営の発展経過と概要

寺澤氏が農業を営む上北郡七戸町は、八甲田山の東側に位置し、町の東は上北郡東北町に、西は青森市、南は十和田市に接する内陸部の町である。気候は、ヤマセや季節風の影響を受け、年間を通じて変動が大きい。農業生産は、ながいも、にんにくなどの野菜や酪農も盛んとなっている。

（１）就農の経緯

昭和 60 年　結婚を契機に義父の経営していた酒店に従事
平成 10 年　義父の高齢化に伴い後継ぎとして 36 歳で就農

（２）発展の経過

経営を継承した当時、ながいもの作付面積は成いも 1.5ha、種いも 1.0ha ほどであり、販売価格が堅調であったことから生活は十分成り立っていた。しかし、平成 17 年頃から価格低迷が数年続き、面積当たりの収益性が悪化してきた。そこで、緑肥等を組み合わせた３年１作の輪作体系を組むことで高品質安定生産とコスト削減を実現し、また、種いも生産という安定した部門を拡大することで所得確保を実現してきた。

その後、長男の就農を機に、ながいもの作付規模の拡大と、にんにくなど栽培品目を増やすことで農業経営の改善につなげてきた。

（３）経営の概要

平成 29 年の経営概要は、転作田 28ａ、普通畑 1,472ａ（内：借入地 800ａ）となっており、販売額はながいも 2,863 万円、にんにく 390 万円、いんげん 20 万円で、経営全体の粗収益 3,528 万円、所得 1,070 万円を達成している。

労働力は、経営主夫婦と長男の 3 人を基本としつつ、農繁期には季節雇用の 3 人を活用している。

ながいもの原種生産網室

〈表１〉経営耕地面積

（平成 29 年・単位： a ）

地　　目	面　　積			
	所 有 地	借 入 地	共 有 地	計
転 作 田	28			28
普 通 畑	672	800		1,472

〈表２〉家族と労働力

（平成 31 年 3 月 1 日現在・単位：歳、日）

氏　　名	続柄	年齢	年間農業従事日数	年間兼業従事日数	役割分担
寺　澤　和　夫	本人	56	250	90（冬季除雪）	経営全般
	妻		200		経理
	長男		250		にんにく部門
	長男の妻		0		
	孫		0		
	母		0		

注）季節雇用：3 人（30 歳男性・42 歳男性・42 歳女性）

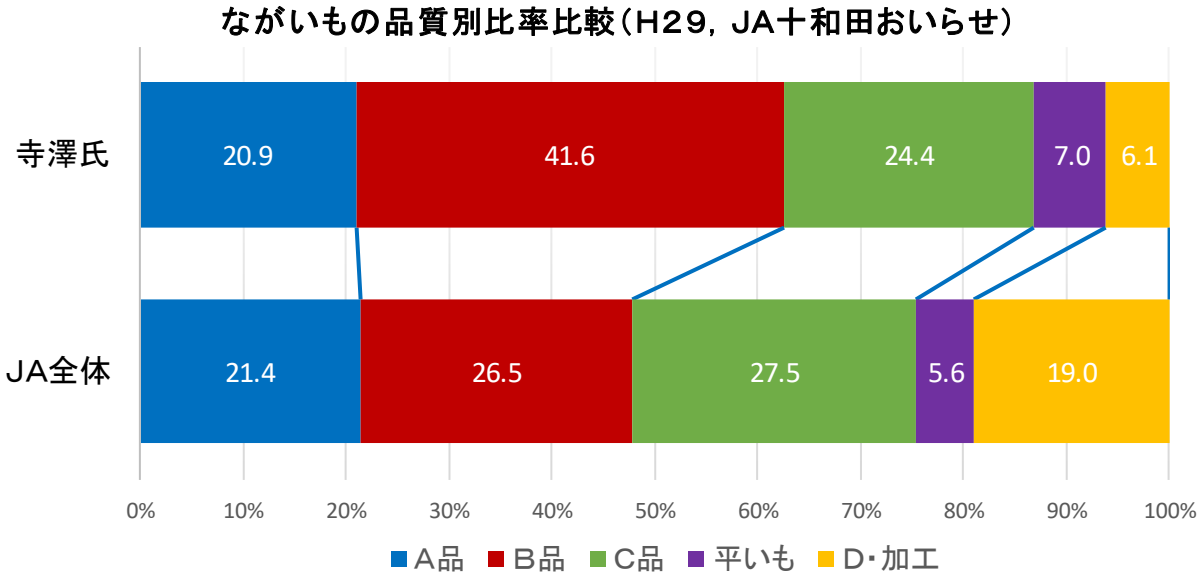
2　経営の特徴

（１）ながいもの高品質生産

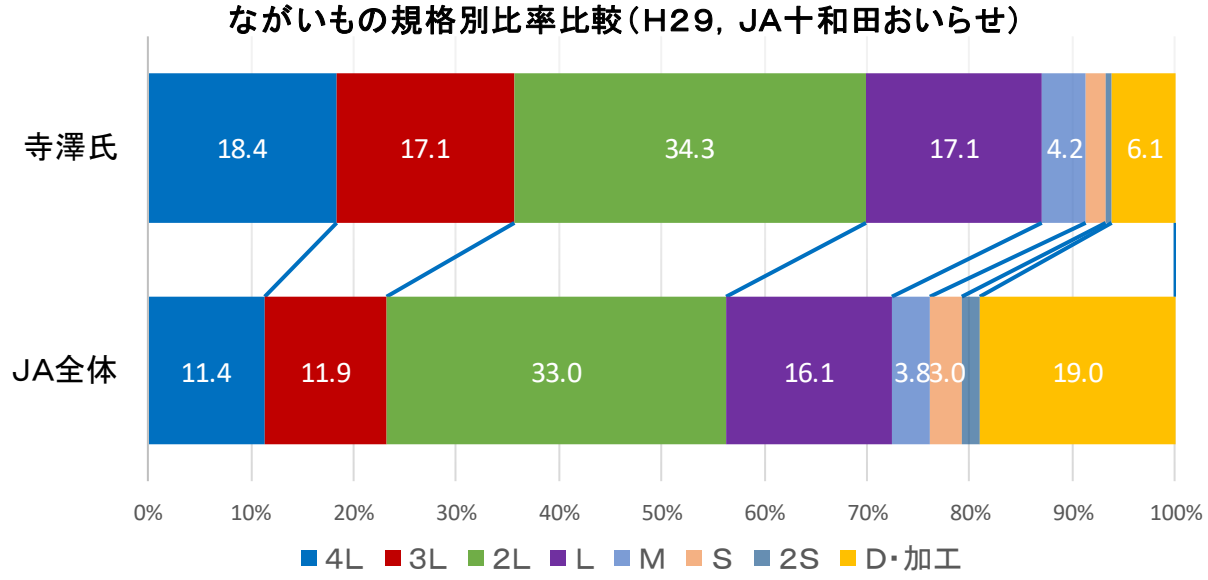
ウイルスフリーの種子を使用することを基本に、３年１作の輪作体系を導入している。ライ麦など数種類の緑肥を輪作体系に組み入れ計画的に畑を休ませることで、地力回復と連作障害の発生防止に努めている。また、土壌診断に基づく適正施肥と堆肥や緑肥を用いた土づくりを徹底し、高品質多収生産を実現している。

特に、ながいもの追肥では、実際にながいもを掘り取って追肥量を判断するなど、「見る」「触る」ことで時期を逃さないよう管理している。寺澤氏は、この観察方法を野球の経験から「周辺視システム」と命名している。打者はボールだけを見て打つのではなく、投手のフォームから全体を予測し見極めなければうまく打てないという考え方である。こうした万全の観察眼によって、持続的な安定生産と高品質生産を実現したと評価できる。

〈図１〉



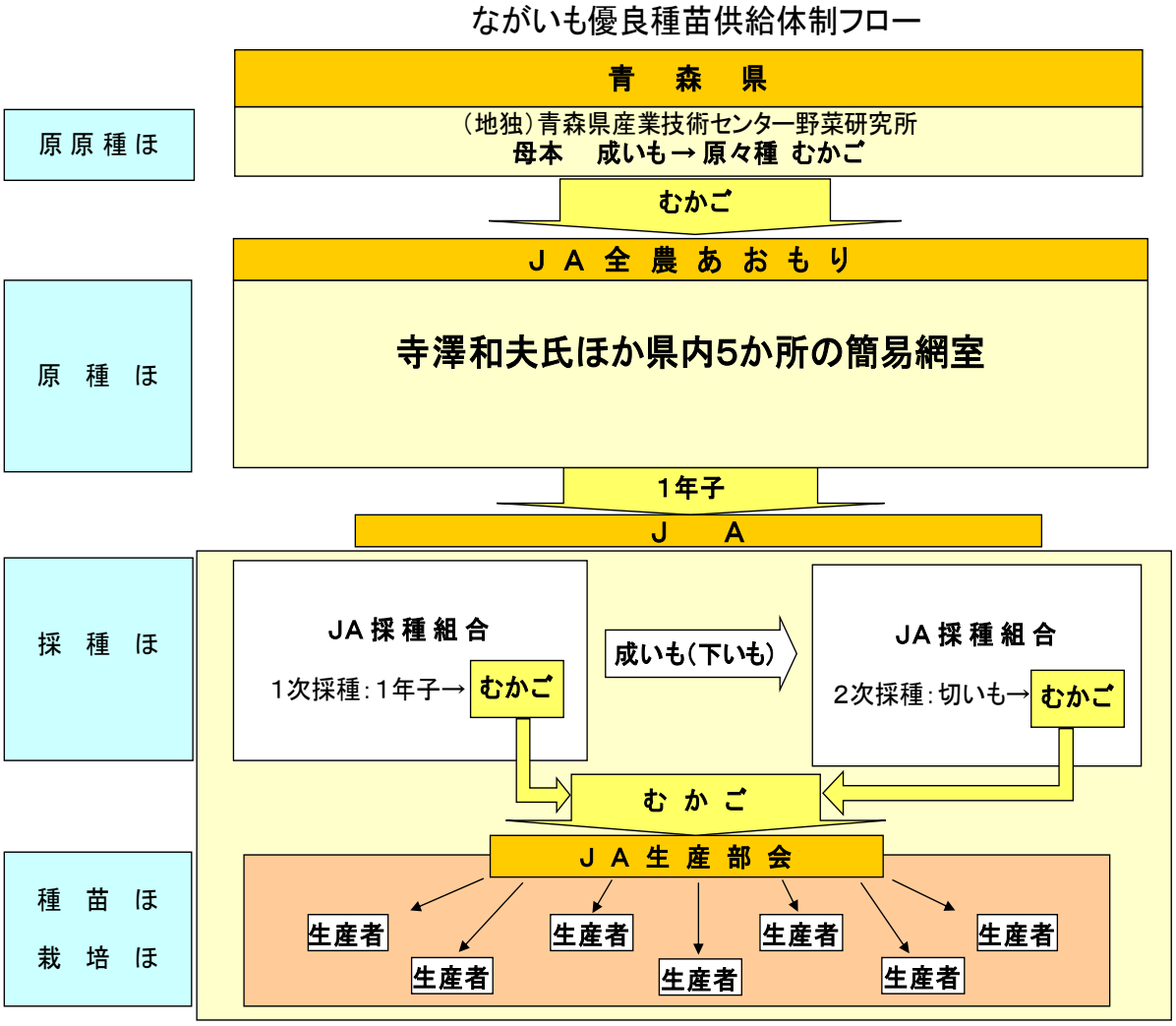
〈図２〉



（２）ながいもの種子生産

ながいもの高い栽培技術が評価され、その技術を十分に生かした種子生産を経営に導入している。現在、ＪＡ全農あおもりから生産を委託され、県内の生産者へ優良種子を供給している。また、自らも優良な種子を使用することで、さらに経営の安定につなげている。

〈図３〉



（３）経営の安定化

ながいも主体の野菜専作農家であるが、転作や雇用を安定化するため、にんにくといんげんを補完作物として導入している。

主な販売先は、生食用のながいもは農協へ、規格外品やにんにくは地元市場、種子用のながいもは農協や種苗会社へ販売することで経営の安定につなげている。

（４）職場環境の整備

綿密なスケジュール管理により繁忙期以外は日曜日を休日とし、家族と雇用者のリフレッシュを図っている。雇用者は 30 代から 40 代の子育て世代ということもあり、子の看護のための休暇等を取りやすいよう環境づくりに努めている。

〈表３〉農作物の生産・販売状況

（平成 29 年・単位：ａ、kg、円）

作物名	作付面積	数量		仕向け内容			
		10ａ当たり収量	総量	販売			経営
				数量	単価	販売額	数量
ながいも	250	2,650	53,000	52,220	[redacted]	[redacted]	
ながいも種子	150	1,800	27,000	16,940	[redacted]	[redacted]	10,000
にんにく	50	1,000	5,000	3,500	[redacted]	[redacted]	1,500
いんげん	5	612	306	306	[redacted]	[redacted]	

注 1）ながいもは平成 28 年産、にんにくは平成 28・29 年産にまたがる。

注 2）ながいもの反収は平成 28 年の成いも生産面積 200a で算出

〈表４〉経営の推移

（単位：円）

区分			平成 24 年（5 年前）	平成 28 年	平成 29 年
収入	ながいも		[redacted]	[redacted]	[redacted]
		販売額	[redacted]	[redacted]	[redacted]
		家事消費	[redacted]	[redacted]	[redacted]
		雑収入	[redacted]	[redacted]	[redacted]
		棚卸し	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	にんにく		[redacted]	[redacted]	[redacted]
	いんげん		[redacted]	[redacted]	[redacted]
	ごぼう		[redacted]	[redacted]	[redacted]
	計		[redacted]	[redacted]	[redacted]
所得			[redacted]	[redacted]	[redacted]

〈表５〉青森県の経営指標との実績比較

（単位：円）

区分	所得	備考
寺澤　和夫	[redacted]	平成29年の実績
青　森　県	7,259,054　（100%）	経営指標

〈表６〉農機具の所有状況

（平成 29 年・単位：台、円）

No.	種　　類	規格・能力	台数	取得年	取得価額
1	トラクター	85ps	1	平成26年	4,319,000
2	トラクター（中古）	43ps	1	平成14年	2,176,200
3	トラクター	75ps	1	平成13年	5,617,500
4	ロータリートレンチャー	2連	1	平成16年	1,417,500
5	パワーハロー		1	平成25年	1,868,525
6	ロータリー		1	平成29年	986,400
7	ながいも掘取機	鋤掘 センター掘	2	平成12･19年	1,740,032
8	マルチスプレーヤー		3	平成22･24･29年	2,029,300
9	ロータリーカッター		1	平成25年	315,000
10	にんにく覆土機		1	平成26年	334,800
11	にんにく収穫機		1	平成20年	348,928
12	マニュアスプレッダー		1	平成22年	500,000
13	にんにく乾燥機		1	平成19年	532,680
14	音声式重量選別機		1	平成24年	122,535
15	トラック	2t	1	平成10年	3,200,000
16	ダンプ（中古）	2t	1	平成29年	1,850,000
17	軽トラック		2	平成20･27年	1,710,903

〈表７〉施設・建物の所有状況

（平成 29 年・単位：坪、円）

No.	種　　類	構造	規模	取得年	取得価額
1	作業場	木造	35	昭和60年	12,699,000
2	農機具格納庫	木造	30	平成15年	3,894,086
3	冷蔵庫		1	平成25年	464,473

〈表８〉作目別経営収支

（平成 29 年・単位：円）

費目		経営全体	作目別		
			ながいも	にんにく	いんげん
粗収益		[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	販売額	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	家事消費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	雑収入	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	棚卸し	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
経営費	種苗費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	肥料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	農業薬剤費（購入）	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	光熱動力費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	その他の諸材料費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	減価償却費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	賃借料・料金	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	物件税・公課諸負担	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	修繕費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	作業用医療費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	農業共済金	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	利子割引料	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	雇用労働費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	荷造運賃手数料	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	雑費	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
合計		[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
所得		[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

３ 地域農業への貢献

ＪＡ十和田おいらせ野菜振興会ながいも専門部会長として、自らのほ場を研修場所に提供し、部会員に技術指導を行っている。また、県の普及指導員や営農大学校の研修生等の受け入れも行っており、農業指導者や担い手の育成に取り組んでいる。このほか、ながいも若手育成塾の講師を平成 24 年のスタート時からを務めており、地域の若手生産者の栽培技術の向上に積極的に関わっている。

また、行政や研究機関と優良系統の選定や省力化技術の実証に取り組み、本県のながいも振興に大きく貢献している。これらの取組や生産技術の高さが認められ、平成 29 年に県から「ながいもの達人」に認定されている。

４　今後の展望と課題

当面は規模を拡大せず、品質重視の経営を目指している。

寺澤氏との聞き取りで印象に残ったのは、「面積が増えれば収入も増えるとは簡単に考えない方が良い」という言葉である。肝心なのは、規模ではなくほ場の良否であると強調し、条件の良い畑を選定することにはじまり、品質の良いものをつくるため丁寧に仕事をすることが大事だと話されていた。

また、今後は経営委譲も視野に入れ、長男と家族協定を結びたいと抱負を語っていた。

ながいもの若手育成塾での指導風景

生産されたながいも

むかご

ながいもの掘り取り

ながいもの選別

むかごの選別